

別冊



- 特集1 防衛この1年
- 特集2 災害派遣のあゆみ
- 特集3 宇宙・サイバー・電磁波領域における挑戦

ダイジェスト

本文第I部～第IV部の要約版として、24ページにわたって説明しています。

資料 平和を仕事にする

自衛官の仕事内容、「世界で活躍する自衛官」、「全国で活躍する自衛官」、主要装備品、主な広報施設などについて紹介しています。

第I部

わが国を取り巻く安全保障環境

第1章 概観

- 1 現在の安全保障環境の特徴 1
- 2 わが国周辺の安全保障環境 2

第2章 諸外国の防衛政策など

第1節 米国 6

- 1 安全保障・国防政策 6
- 2 軍事態勢 14

第2節 中国 17

- 1 全般 17
- 2 軍事 18
- 3 対外関係など 43

第3節 米国と中国の関係など 48

- 1 米国と中国との関係（全般） 48
- 2 インド太平洋地域における米中の軍事動向 49
- 3 台湾の軍事力と中台軍事バランス 53

第4節 朝鮮半島 56

- 1 北朝鮮 57
- 2 韓国・在韓米軍 74

第5節 ロシア 79

- 1 全般 79
- 2 安全保障・国防政策 80
- 3 軍事態勢と動向 81
- 4 北方領土におけるロシア軍 87
- 5 対外関係 88

第6節 大洋州 94

- 1 オーストラリア 94
- 2 ニュージーランド 97

第7節 東南アジア 99

- 1 全般 99
- 2 各国の安全保障・国防政策 99
- 3 各国の軍の近代化 104
- 4 地域内外における協力 105

第8節 南アジア 107

- 1 インド 107
- 2 パキスタン 109
- 3 カシミア地方の帰属をめぐるインドとパキスタンとの対立 110

第9節 欧州・カナダ 112

- 1 全般 112
- 2 多国間の安全保障の枠組みの強化 112
- 3 欧州各国などの安全保障・防衛政策 115

第10節 その他の地域（中東・北アフリカを中心に） 119

- 1 全般 119
- 2 湾岸地域情勢 119
- 3 中東和平をめぐる情勢 122
- 4 シリア情勢 123
- 5 イエメン情勢 125
- 6 リビア情勢 126
- 7 エジプト情勢 127
- 8 アフガニスタン情勢 127
- 9 南スーダン情勢 128
- 10 ソマリア情勢 128

第3章 宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域をめぐる動向・国際社会の課題

第1節 軍事科学技術をめぐる動向 130

- 1 軍事科学技術の動向 130
- 2 防衛技術・産業基盤をめぐる動向 133

第2節 宇宙領域をめぐる動向 135

- 1 宇宙領域と安全保障 135
- 2 宇宙空間に関する各国の取組 136

第3節 サイバー領域をめぐる動向 140

- 1 サイバー空間と安全保障 140
- 2 サイバー空間における脅威の動向 140
- 3 サイバー空間における脅威に対する取組 142

第4節 電磁波領域をめぐる動向 146

- 1 電磁波領域と安全保障 146
- 2 電子戦に関する各国の取組 147

第5節 海洋をめぐる動向 149

- 1 「公海自由の原則」をめぐる動向 149
- 2 海洋安全保障をめぐる各国の取組 150
- 3 北極海をめぐる動向 152

第6節 大量破壊兵器の移転・拡散 154

- 1 核兵器 154
- 2 生物・化学兵器 155
- 3 弾道ミサイルなど 155
- 4 大量破壊兵器などの移転・拡散の懸念の拡大 156

第7節 国際テロリズムの動向 157

- 1 全般 157
- 2 ISIL系国際テロ組織の動向 158
- 3 ISIL系国際テロ組織以外の動向 159

第8節 気候変動が安全保障環境や軍に与える影響 161

第II部

わが国の安全保障・防衛政策

第1章 わが国の安全保障と防衛の基本的考え方

第1節 わが国の安全保障を確保する方策 165

第2節 憲法と防衛政策の基本 166

- 1 憲法と自衛権 166
- 2 憲法第9条の趣旨についての政府見解 166
- 3 基本政策 168

第2章 わが国の安全保障と防衛に関する政策

第1節 国家安全保障戦略の概要 169

- 1 わが国の国家安全保障政策の体系 169
- 2 国家安全保障戦略の概要 —積極的平和主義— 169

第2節 防衛計画の大綱の概要 171

- 1 基本的な考え方—多次元統合防衛力の構築— 171
- 2 わが国の防衛の基本方針 172
- 3 防衛力強化にあたっての優先事項 173
- 4 自衛隊の体制など 173
- 5 防衛力を支える要素 173

第3節 中期防衛力整備計画（令和元年度～令和5年度）の概要 177

- 1 計画の方針 177
- 2 整備規模 177
- 3 所要経費 177

第3章 わが国の安全保障と防衛を担う組織

第1節 国家安全保障会議 180

第2節 防衛省・自衛隊の組織 181

- 1 防衛力を支える組織 181
- 2 自衛隊の統合運用体制 186

第4章 防衛力整備など

第1節 令和3年度の防衛力整備 188

第2節 防衛関係費 190

- 1 防衛関係費の概要 190
- 2 防衛関係費の内訳 190
- 3 効率化への取組 193
- 4 各国との比較 194

第5章 自衛隊の行動などに関する枠組み

- 1 武力攻撃事態等及び存立危機事態における対応 195
- 2 重要影響事態への対応 197
- 3 公共の秩序の維持や武力攻撃に至らない侵害への対処など 198
- 4 災害派遣など 200
- 5 国際社会の平和と安定への貢献に関する枠組み 201

第Ⅲ部

わが国防衛の三つの柱 (防衛の目標を達成するための手段)

第1章 わが国自身の防衛体制

第1節 平時からグレーゾーンの事態への対応 208
1 わが国周辺における常統監視 209
2 「瀬取り」への対応 211
3 わが国の主権を侵害する行為に対する措置 213
4 中東地域における日本関係船舶の安全確保のための情報収集 217
第2節 島嶼部を含むわが国に対する攻撃への対応 221
1 島嶼部に対する攻撃への対応 221
2 ミサイル攻撃などへの対応 225
3 ゲリラや特殊部隊による攻撃などへの対応 231
4 侵略事態への備え 234
5 国民保護に関する取組 236
第3節 宇宙・サイバー・電磁波の領域での対応 238
1 宇宙領域での対応 239
2 サイバー領域での対応 243
3 電磁波領域での対応 246
第4節 大規模災害などへの対応 (新型コロナウイルス感染症への対応を含む。) 251
1 大規模災害などへの対応 (新型コロナウイルス感染症への対応を含む。) 251
2 在外邦人等の保護措置及び輸送への対応 259
第5節 平和安全法制施行後の自衛隊の活動状況など 260
1 平和安全法制に基づく新たな任務に向けた各種準備の推進など 260
2 米軍等の部隊の武器等防護 (自衛隊法第95条の2)の警護の実績 261
3 その他の取組・活動など 261

第2章 日米同盟

第1節 日米安全保障体制の概要 262
1 日米安全保障体制の意義 262
2 「日米防衛協力のための指針」(ガイドラインの内容) 264
3 日米間の政策協議 269
第2節 日米同盟の抑止力及び対処力の強化 274
1 宇宙領域やサイバー領域などにおける協力 274
2 総合ミサイル防空 275
3 共同訓練・演習 275
4 情報収集・警戒監視・偵察 (ISR) 活動 277
5 海洋安全保障 277
6 後方支援 278
7 わが国における大規模災害への対処における協力 279
第3節 幅広い分野における協力の強化・拡大 280
1 望ましい安全保障環境の創出 280
2 能力発揮のための取組 280
第4節 在日米軍駐留に関する施策の着実な実施 282
1 在日米軍の駐留 282
2 在日米軍再編の進捗状況 285
3 沖縄における在日米軍の駐留 285
4 沖縄を除く地域における在日米軍の駐留 301
5 在日米軍再編を促進するための取組 305

第3章 安全保障協力

第1節 多角的・多層的な安全保障協力の戦略的な推進に向けて 306
1 安全保障協力・対話、防衛協力・交流の意義と変遷など 306
2 各国との防衛協力・交流の推進 312
3 多国間における安全保障協力の推進 341
4 能力構築支援への積極的かつ戦略的な取組 348
第2節 海洋安全保障の確保 351
1 海洋安全保障の確保に向けた取組 351
2 海賊対処への取組 351
3 訓練などを通じた取組 355
4 海洋安全保障にかかる協力 356
第3節 宇宙領域及びサイバー領域の利用にかかる協力 357
1 宇宙領域の利用にかかる協力 357
2 サイバー領域の利用にかかる協力 357
第4節 軍備管理・軍縮及び不拡散への取組 359
1 軍備管理・軍縮・不拡散関連条約などへの取組 359
2 大量破壊兵器の不拡散などのための国際的な取組 360
第5節 国際平和協力活動への取組 362
1 国際平和協力活動の枠組みなど 362
2 国連平和維持活動などへの取組 363
3 国際緊急援助活動への取組 369

第Ⅳ部

防衛力を構成する中心的な要素など

第1章 人的基盤と衛生機能の強化

第1節 人的基盤の強化 371
1 募集・採用 371
2 日々教育 377
3 人的資源の効果的な活用に向けた施策など 379
第2節 ワークライフバランスと女性の活躍の更なる推進 387
1 ワークライフバランス推進のための働き方改革 387
2 女性の活躍推進のための改革 390
第3節 衛生機能の強化 393
1 シームレスな医療・後送態勢の強化 393
2 自衛隊病院の拠点化・高機能化 393
3 防衛医科大学校の機能強化 396
4 医官・看護官などの確保・育成 396
5 戦傷医療対処能力の向上 396
6 国際協力に必要な態勢の整備 397

第2章 防衛装備・技術に関する諸施策

第1節 装備体系の見直し 398
1 合理的な装備体系の構築のための取組 398
2 限られた人材を最大限有効に活用するための取組 (無人化・省人化) 399
第2節 技術基盤の強化 400
1 技術基盤の強化の必要性 400
2 防衛技術戦略など 401
3 研究開発に関する取組 402
4 民生技術の積極的な活用 404
第3節 装備調達最適化 407
1 ライフサイクルを通じたプロジェクト管理 407
2 契約制度などの改善 408
3 調達の効率化に向けた取組など 410
4 FMS調達の合理化に向けた取組の推進 411
第4節 産業基盤の強靱化 412
1 わが国の防衛産業基盤の現状 412
2 防衛生産・技術基盤戦略 412
3 産業基盤の強靱化に向けた取組 413
第5節 防衛装備・技術協力 416
1 防衛装備移転三原則 416
2 米国との防衛装備・技術協力関係の深化 417
3 新たな防衛装備・技術協力の構築 418
4 部外転用 423
5 国際防衛装備品展示会への出展 424
6 防衛装備品の適切な海外移転に向けた官民連携 424
7 装備品にかかる重要技術の流出防止 424

第3章 情報機能の強化

1 軍事情報の収集 425
2 情報機能の強化に向けた取組 427
3 情報本部 427

第4章 高い練度を維持・向上する自衛隊の訓練・演習

第1節 各自衛隊の訓練・演習 428
1 部隊の練成 428
2 訓練・演習の意義 430
3 各自衛隊の主要訓練 431
4 練成訓練の客観的・定量的な評価 435
第2節 各種訓練環境の整備 438
1 訓練環境 438
2 安全管理への取組など 439

第5章 地域社会や環境との共生に関する取組

第1節 地域社会や環境との調和にかかる施策 440
1 民生支援活動 440
2 地方公共団体などによる自衛隊への協力 441
3 地方公共団体及び地域住民の理解・協力を確保するための施策 441
4 防衛施設と周辺地域との調和を図るための施策 442
5 国家行事への参加 445
6 東京オリンピック・パラリンピック競技大会への取組 446
7 南極地域観測に対する支援 447
8 部外土木工事の受託 448
9 その他の取組 448
第2節 環境問題への対応 450
1 防衛省・自衛隊の施設に関する取組 450
2 在日米軍施設・区域に関する取組 451
第3節 情報発信や公文書管理・情報公開など 453
1 様々な広報活動 453
2 公文書管理・情報公開に関する取組 457
3 政策評価などに関する取組 458

索引 461

資料編

https://www.mod.go.jp/j/publication/wp/wp2021/pdf/R03shiryo.pdf



防衛年表

https://www.mod.go.jp/j/publication/wp/wp2021/pdf/R03nenpyo.pdf



COLUMN

第I部

第2章 諸外国の防衛政策など

解説 最近の中国の組織・制度改革等について
～海警法をはじめとする法整備を中心に～…………… 28

解説 北朝鮮の弾道ミサイル能力…………… 71

解説 韓国の軍備増強と国防予算…………… 76

解説 ナゴルノ・カラバフをめぐる軍事衝突…………… 91

解説 中印国境問題…………… 111

第II部

第2章 わが国の安全保障と防衛に関する政策

解説 宇宙作戦群（仮称）の新編について…………… 179

第4章 防衛力整備など

解説 不用物品の「せり売り」について…………… 193

第5章 自衛隊の行動などに関する枠組み

解説 各種事態などの概要について…………… 203

解説 自衛隊の任務について…………… 204

第III部

第1章 わが国自身の防衛体制

解説 尖閣諸島について…………… 210

解説 北朝鮮による「瀬取り」とは…………… 212

解説 対領空侵犯措置について…………… 215

VOICE 警戒監視にあたる早期警戒機搭乗員の声…………… 216

解説 スタンド・オフ防衛能力の強化…………… 223

解説 新型護衛艦（FFM）、新型潜水艦について…………… 223

VOICE 安定性、機動性に優れたオスプレイを操縦して…………… 224

VOICE グレーゾーンの事態への対応に向けた
警察との共同訓練について…………… 233

VOICE 新領域における統合運用に係る
企画立案機能の整備について…………… 238

解説 宇宙領域の特性と
「宇宙領域シミュレータ」について…………… 241

解説 ミサイル防衛のための
衛星星座運用活用検討について…………… 243

解説 防衛省サイバーコンテストについて…………… 247

解説 陸上自衛隊における電磁波作戦部隊の新編による
領域横断作戦への貢献…………… 249

解説 電波情報収集機「RC-2」の配備について…………… 250

VOICE 新型コロナウイルス感染症対応のために派遣された
隊員とその隊員家族の声…………… 255

VOICE 令和2年台風第10号接近前の避難支援に参加した
隊員の声…………… 256

第2章 日米同盟

VOICE 日米同盟をさらに強化するための
YS（ヤマサクラ）に参加した隊員の声…………… 277

VOICE 日米共同訓練に参加した日米飛行隊長の声…………… 278

解説 日米共同「エレファント・ウォーク」の
実施について…………… 281

解説 嘉手納飛行場以南の土地の返還について…………… 297

第3章 安全保障協力

解説 新型コロナウイルス感染症流行下における
防衛協力・交流…………… 310

VOICE 日豪・日米豪の連携強化に貢献する
豪陸軍連絡将校の声…………… 313

VOICE 日米印豪共同訓練「マラパール2020」に参加して…………… 317

VOICE 海洋安全保障について
～初の自衛官出身大使の声～…………… 355

VOICE UNMISS司令部に派遣されている女性隊員の声…………… 366

VOICE 国連において国連三角パートナーシップ・プロジェクト
に関する業務に携わる隊員の声…………… 368

第IV部

第1章 人的基盤と衛生機能の強化

VOICE 活躍する即応予備自衛官と雇用主の声…………… 375

VOICE 防衛技官の活躍…………… 377

VOICE 国内外の大学院などで学ぶ隊員の声…………… 378

VOICE 自衛隊新卒について
～再就職した隊員と雇用主の声～…………… 381

解説 危機管理産業展2020への出席
～危機管理分野における退職自衛官の雇用促進～…………… 382

VOICE 地方公共団体などの防災部局で活躍する退職自衛官の声
～全国初の「広域圏事務組合」危機管理官～…………… 382

VOICE 両立支援制度の活用…………… 389

VOICE 女性自衛官の活躍…………… 391

VOICE 新型コロナウイルス感染症に対応する医官の声…………… 394

第2章 防衛装備・技術に関する諸施策

解説 先進技術に関する研究開発体制の強化について…………… 401

VOICE 次期戦闘機開発着手…………… 403

VOICE 初めての国産完成装備品海外移転
「フィリピン向け防空レーダー」…………… 421

第3章 情報機能の強化

VOICE 各国防衛駐在官の声…………… 426

第4章 高い練度を維持・向上する自衛隊の訓練・演習

VOICE 陸自の任務遂行能力をさらに高める
訓練評価支援隊の訓練に参加した連隊長の声…………… 436

VOICE 護衛艦隊の各種戦能力の向上…………… 437

VOICE 大空を守る者の使命～自衛隊の航空交通管制～…………… 439

第5章 地域社会や環境との共生に関する取組

解説 地域社会におけるインフラ整備等への支援…………… 445

VOICE オリンピックのため
モチベーションを維持しつつ挑戦する隊員の声…………… 446

解説 在日米軍施設・区域に関する
環境管理の枠組みについて…………… 452

解説 新たな航空観閲式について…………… 454

解説 F-4戦闘機の退役～ファントムⅡの第2の人生～…………… 455

解説 伝統の味海自カレー VS 新進気鋭空自空上げ（からあげ）…………… 456

凡例

●本書の文中において、次の用語について、それぞれ次の略称を用いたほか、適宜ほかの用語についても略称を用いているところがあります。（一部説明の都合上、正式名称としている場合があります。）

1. 防衛事務次官	→ 事務次官
2. 統合幕僚長	→ 統幕長
3. 陸上幕僚長	→ 陸幕長
4. 海上幕僚長	→ 海幕長
5. 航空幕僚長	→ 空幕長
6. 陸上自衛隊	→ 陸自
7. 海上自衛隊	→ 海自
8. 航空自衛隊	→ 空自
9. 統合幕僚監部	→ 統幕
10. 陸上幕僚監部	→ 陸幕
11. 海上幕僚監部	→ 海幕
12. 航空幕僚監部	→ 空幕
13. 日本国とアメリカ合衆国との 間の相互協力及び安全保障条約	→ 日米 安保条約
14. 国際連合	→ 国連
15. 国連安全保障理事会	→ 国連安保理

●本書に掲載している地図は、デザイン、レイアウトに応じて省略などを施しており、必ずしもわが国の領土の全てを含んでいない場合があります。

本書の記述対象期間は、原則として令和3年3月末までです。